

丸山千枚田の豊作を願う伝統行事



虫おくりとは

慶長6年(1601)には2240枚あったといわれている丸山千枚田は、平成5年当時530枚程度にまで減っていたが、この貴重な資源を保護し後世に伝えていくことが極めて重要と考え、市では「日本の農耕文化」として位置づけ、平成5年より復元を開始。現在1340枚を保全している。

その農耕文化の一つとして、「虫おくり」があり、昭和28年まで実際に丸山地区で行われていた行事で、現在の稲作では害虫駆除にあたるもの。その当時農薬等もなく、なすすべがなかったことから、地域の子供たちが集まり、お寺からお札をもらって、松明と太鼓、鐘などを手に千枚田の中を練り歩き、火と音で害虫を追払うもの。この行事には、ひと粒でも多くのお米を収穫したいという素朴な農民の祈りがこめられている。

平成16年に熊野古道が世界遺産となったことから、それを記念して平成16年から復活した。地元の小中学生や丸山区民、さらに千枚田オーナーや一般の方々丸山千枚田を練り歩き、「虫おくり殿のお通りだい」の掛け声とともに千枚田の豊作を願うものである。

平成21年には、棚田に1000本、平成22年には1340本の松明を灯し、幻想的な景観の中で虫おくり行事が行われるようになり、丸山千枚田の夏の風物詩となっている。

丸山千枚田の虫おくり

丸山千枚田の虫おくり

平成23年7月9日(土)19:00～丸山神社

夢輝のあミニコンサート

18:00～丸山千枚田テント付近で開催

主催：丸山千枚田の虫おくり実行委員会 後援：丸山区・丸山千枚田保存会・(財)紀和町ふるさと公社・熊野市

駐車場は千枚田オートキャンプ場をご利用ください 送迎バスあり